

メバルの放流について、下記の内容で地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所とともに令和6年1月19日に報道提供を行いました。

魚介類資源の増大を目指して  
大阪湾でメバル1万尾を放流します  
成長や放流適地を調査中！

環農水研と栽培漁業センターでは、大阪湾の魚介類資源を増やすため、魚介類の稚魚を育てて放流する「栽培漁業」を大阪府の計画のもとで推進しています。その一環として、このたびメバル※の稚魚放流を下記の通り実施します。

環農水研では、メバルに標識を装着して放流し、その後は継続的に標識個体の漁獲情報を収集・解析します。これにより、大阪湾での成長速度の推定やメバルの生息に適した放流場所の検討など、効果的な放流技術の確立をめざした調査研究を進めます。

栽培漁業センターは、メバルが放流サイズに達するまで育成し、メバル稚魚の安定的な飼育技術の開発を行っていきます。

記

放流種：メバル

放流個体数：1万尾

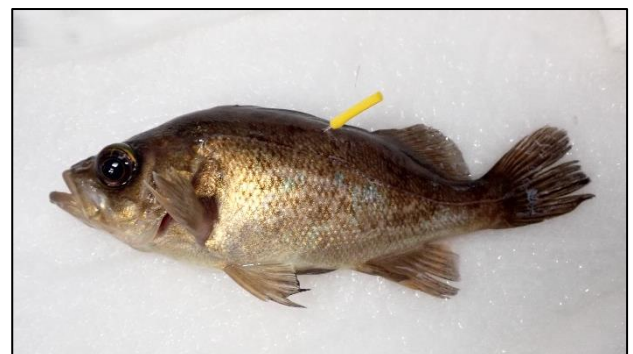
放流サイズ：全長約11センチメートル（体重約22グラム）

放流予定日：2024年1月25日（木曜日）

※荒天により変更することがあります。

放流場所：岬町周辺地先

※ 現在メバルは3種（アカメバル、クロメバル、シロメバル）に分類されていますが、ここではわかりやすくメバルと称します。  
メバルは食味がよく食卓でも人気の高い魚です。また、遊漁対象としても人気の魚で、「春告魚（はるつげうお）」として親しまれています。大阪府内では刺し網漁や底びき網漁等で漁獲されますが漁獲量はそれほど多くなく、資源増大が望まれていることから2022年度より放流技術開発魚種に選定され、稚魚放流を行っています。



標識を付けたメバル種苗